

元気な地域を作る為に活躍中!

熊本市主催の介護予防サポーター養成講座を受講されたお二人をご紹介します!

〈託麻原校区〉

清元 ミチ子さん

- ① 「自分の為」と思って参加した。
- ② 人脈が広がり、色々な情報が入るようになったこと。
- ③ 自分や家族の健康に配慮して、高齢者が皆、元気に暮せる街づくりに協力したい。

〈帯山西校区〉

高木 徹さん



- ① 自分や家族も年を取って何があるか分からない。自分や家族も、地域の為と思って参加した。
- ② 色々な知識を得ることが出来た。将来安心できる。
- ③ 自分の住む町内だけでなく、他の所でも自分が知っている情報を提供していきたい。

- ① 介護予防サポーターに応募したきっかけは?
- ② 参加してよかったことは?
- ③ 今後やってみたいこと、抱負は?

九月〜十二月までの

その他の行事一覧

- 九月三十日
第三回家族介護者教室
「介護の方法と介護用品の使い方」
アメックス熊本 岩下氏
- 十月二十七日
居宅・包括連絡会
(中央四・五包括圏域合同)
「認知症の理解に基づく
ケアプランの基本的考え方」
熊本県介護指導者 松田修氏
- 十一月七日
第四回家族介護者教室
「各種防災について」
健軍消防署出水出張所救急隊員
- 十一月十一日
徘徊模擬訓練第一回打ち合わせ
- 十二月二日
山鹿市での徘徊模擬訓練の報告、
及び第二回打ち合わせ

十二月八日 第三回地域運営協議会

- 十二月十五日
徘徊模擬訓練第三回打ち合わせ
- 十二月二十二日
居宅・包括連絡会
「高齢者の栄養管理」
フォレスト熊本
管理栄養士 本多氏

★編集後記★

二〇一二年、新しい年が始まりました。昨年は、色々な事が次から次へとあり忙しい一年でした。今年も新たに地域の皆様と一緒に、地域のネットワーク作りに取り組みでいきたいと思えます。

やすらぎの森職員一同、精一杯頑張っていますので今後とも宜しくお願いします。

福山 登紀子



新しい年を迎えて.....

あけましておめでとうございます。昨年中は皆様方に大変お世話になりました。職員一同感謝申し上げます。昨年を振り返ってみますと、

まず熊本市の政令都市移行に併せて、地域包括支援センターが再編されることになり、公募がありました。やすらぎの森におきましても熊本市より指定を受けることができました。因みに、担当校区が託麻原、帯山西に加えて、帯山西校区も担当させていただきましたことになりました。事務所も移転することになっており、職員一同新たな気持ちでスタートしたいと考えております。

さて、今年は、やすらぎの森にとっても、その新しいスタートですが、やすらぎの森が活動を開始して、早六年が過ぎようとしています。今年は、地域で生活されている高齢者の方を支援する「環境づくり」に力を入れていきたいと思えます。その一つが、昨年より具体的に取り組んでいます。認知症の方やそのご家族を支援する地域のネットワークづくりです。特に託麻原校区では三月十八日(日)に徘徊模擬訓練を実施いたします。校区の皆様方にはぜひ参加していただければと思います。ご案内は自治会や老人会、民生委員さんをお願いしてまいります。

お願いばかりではございますが、本年もどうぞ宜しくお願い致します。



熊本市中央4地域包括支援センター

やすらぎの森

熊本市渡鹿5丁目1番37号

電話:096-375-1412

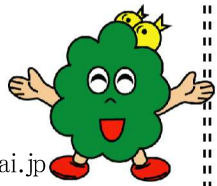
E-mail:yasuraginomori@kyouninkai.jp

http://www.kyouninkai.jp/yasuragi/index.html

第18号

平成24年1月

笑顔



センター長 那須 久史

認知症サポートリーダー養成講座

第16号の『笑顔』新聞でも掲載していましたが、9月16日よりやすらぎの森では認知症サポートリーダー養成講座を毎月開催しております。平成24年2月21日までの全6回を開催予定としており、今回は第2～4回目の講座の報告をいたします。

◇第2回(10月13日)

グループホーム せせらぎ代表の高橋恵子氏より前半は「認知症の人を理解し支えるということ～寄り添うこと、尊厳～」をテーマに、夕暮れ症候群のある利用者の行動に照らし合わせながら心理状態や声掛けの方法などを話していただきました。後半は「資源マップを作ってみよう」のテーマでグループワークを行い、町内のコミュニティセンターや学校、病院やサービス事業所などを広用紙に書き出しマップを作りました。



各グループの発表

◇第3回(11月22日)

介護老人保健施設 孔子の里の松永美根子副施設長より、前半は「認知症の経過別ケア～初期から終末期まで～」をテーマに、認知症の種類や症状について例をあげて具体的に話していただきました。後半は「みんなで認知症の方への対応を学ぼう」をテーマにグループワークを行いました。認知症の種類や症状別に利用者の心理状態を推察して、支援方法を考えました。認知症状のサインを見逃さず、悪化しないような方法を学びました。



グループワークの様子

◇第4回(12月15日)

認知症の人と家族の会 熊本県支部事務局の富岡大高氏より、前半は「認知症の人と家族支援について～家族の苦悩と願い、そして希望～」というテーマで、認知症とその家族を支えるコールセンターでの相談内容や“つどい”などでの活動を話していただきました。後半は「みんなで認知症の方の家族支援を考えよう」のテーマでグループワークを行い、ゴミ出しや買い物で外出されている時にさり気なく家族を労う声を掛ける、などの支援方法の意見が出されました。



各グループの発表

初キッズサポートリーダー養成講座

託麻原小学校

十月二十八日(金)の五、六時間目に託麻原小学校六年生百三十名あまりを対象に、認知症キッズサポートリーダー養成講座を開催しました。

五時間目は老化現象や、認知症の症状・認知症の人の気持ちについて話をしました。認知症は、脳の老化ではなく、脳の病気によって起こってくる症状であることを強調して伝えました。

六時間目は、グループワークを行いました。もの忘れがひどいおばあちゃんを例にあげて、「みなさんだったらどんな対応をしますか」という課題をもとに六名程度のグループで話し合ってもらいました。民生委員の方々にもグループの中に入ってもらい、ファシリテーターとして協力してもらいました。

今回、小学生を対象とした認知症サポートリーダー養成講座は、やすらぎの森としても初めての取り組みでした。そのため、たくさんの方々のお力を借りてやり遂げることが出来ました。私自身改めて「人との繋がりや助け合いの大切さ」を実感致しました。今後も担当校区の小学校で認知症キッズサポートリーダー養成講座を開催できるように努力していきます。



認知症支援ネットワークに向けて

山鹿市の徘徊者捜索・声かけ模擬訓練視察

託麻原校区の徘徊者捜索・声かけ模擬訓練開催に向けて、十一月二十七日の日曜日に、校区の社会福祉協議会、民生委員、自治会、老人会やPTA、介護保険の事業所、やすらぎの森の約五十名程で、山鹿市の徘徊者捜索・声かけ模擬訓練に参加してきました。

声かけの仕方の良い例と悪い例の寸劇を見学後、実際に町を歩き声かけを行いました。高齢者が住み慣れた地域で暮し続けられるためには、地域住民の方々との協力が不可欠であると痛感しました。地域組織のネットワークの重要性を実感でき、大変勉強になりました。



声かけの良い例、悪い例を寸劇で紹介。



実際に、模擬徘徊者の方に声をかけてます。認知症役の方も真剣です。